

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	カンボジア北西部バットアンバン州において、CMAC と協働による地雷処理作業を実施し、CMAC に地雷処理技術に移転して自立処理能力の向上に寄与するとともに、地域住民の安全性の増大を図る。
(2) 事業内容	<p>ア 技術移転</p> <p>(ア) 素養試験及び練度評価 リフレッシャー訓練時を利用して素養試験を、また、11 月から 12 月の間、#1 練度評価を実施した。 別紙第 1 「素養試験集計表」 別紙第 2 「各級指揮官練度評価一覧表」</p> <p>(イ) OJT</p> <p>① 現場指導 処理作業効率、補給整備、安全管理、ブリーフィング要領等 30 回実施した。 別紙第 3-1 「OJT 実施状況」</p> <p>② 計画教育 機械と人力の統合、成果の分析反映等 5 回実施した。 別紙第 3-2 「計画教育実施状況」</p> <p>(ウ) ITTT 訓練 各 DU 内の小隊長、班長等に対し 10 月と 11 月に ITTT 訓練を実施した。</p> <p>(エ) CMAC と合同の巡回評価 1 月 13～17 日、CMAC と合同で DU1・2・6 において 5 個小隊と 1 個 DM チームの巡回評価を実施した。</p> <p>イ 地雷処理 ランドリリリース方式に基づき、機械処理と人力処理の統合処理により 165. 6ha の地雷原を処理した。</p>
(3) 達成された効果	<p>ア 技術移転</p> <p>(ア) 裨益者 事業編成内小隊等の指揮官 16 名、隊員 44 名の計 60 名、事業成編外 DU 1・2・6 の 5 個小隊と 1 個 DM チーム 100 名の合計 160 名である。</p> <p>(イ) 素養試験及び練度評価 (副) 小隊長、班長の素養試験の平均点は 84.0 点であるが、練度評価においては目標未到達者が 7 名認められることから、今後重点的に教育を行い全員 80 点到達を図る。</p> <p>(ウ) OJT</p> <p>① ランドリリリース 各級指揮官のランドリリリース能力は逐次向上が見られ、特に地雷存在の低い地雷原での作業効率が向上した。しかし、3 名が目標に到達していないことから、今後、重点教育を行ない年度目標の達成を図る。</p> <p>② 機械処理と人力処理の統合処理 サイトマネージャーは目標に到達しているが、他指揮官の</p>

	<p>一部は不十分である。特に、DM 小隊は雨季等の影響により機械と人力との連携場面が少なく、今後、地形気象に応じた部隊運用等の教育を重視してその完成を図る。</p> <p>③ 管理技能 作業上の品質管理及び各級指揮官による現場指導能力は確実に向上している。しかし、工程管理については、個人差が大きく特に、機械力の効率的運用能力が不十分であり、今後その向上を図る。</p> <p>(エ) CMAC と JMAS との巡回評価 各 DU 小隊長等のランドリリース理解度、地雷処理管理要領、及びブリーフィング要領を評価した。JMAS 主導によりチェックリストを作成し係数的評価に努めた。JMAS 外小隊は JMAS 内小隊に比べ全般的に能力が劣り、CMAC 全体の向上を図る必要がある。</p> <p>イ 地雷処理 2月28日現在、事業地内の4ヶ村において、24コ地雷原、165.6haを処理した。これは、計画140.1haに対し118%の達成率である。</p> <p>ウ 危険回避教育(参考) 事業地近傍の小学校、行政機関等を主対象に機会教育を16回実施した(参加者963名)。地元密着型教育として効果が大きく、引き続き実施していく。 別紙第4「危険回避教育」</p> <p>エ 広報(参考) JICA関係者をはじめ、4回15名の見学者に対応した。 別紙第5「現地見学状況」</p>
(4) 今後の見通し	<p>ランドリリース、機械と人力の統合運用及び管理技能を主体に技術移転を行っているが、これまで順調に進展していると評価している。目標未達成課目及び人数が一部に留まっていること、未達成率は小さく、かつ、順調な伸びを示していることから、全員が事業末期には全課目とも目標の80点を獲得できると思料される。既に目標に到達している者に対しては、努めて高い目標達成に努め、技術移転のあり方を追求していく。</p>